

文化財保護課

群馬県前橋市

西久保遺跡

埋蔵文化財発掘調査報告書

1993

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

## 序

前橋市は、北に赤城山、西に榛名山を望む関東平野の北部を市域とした県都であります。北から南に貫流する利根川の清流は「水と緑と詩の町」を潤し、かつては「糸の町」として養蚕製糸で栄えてきました。今、人口28万を擁し生涯学習に力を入れ、教育文化・総合福祉・産業振興など「活力と魅力ある総合機能都市」づくりが進められています。

西久保遺跡のある総社・元総社地区は、市の中心街地から北西の利根川右岸にあり、古来上野国の中心として古墳時代には数多くの古墳が築かれ、律令政治の時代には国府がおかれ、中世には元総社町の大部分を城郭とする、県下の大城郭で最古クラスと言われる守護代長尾氏の蒼海城があり、近世には秋元氏の総社城築城や天狗岩用水や五千石堰が開削されるなど、また城下町から宿場街としての役割も果たし、400年あまり経た今も宿場の地割が現存するところであります。戦後昭和30～40年代の土地区画整理事業が行われ、大規模工場の誘致が進められるなど、前橋市が消費都市から現在の生産都市への発展に大きく踏出すきかげとなった地域であります。

この調査は、民間宅地開発事業による宅地造成工事に先かけて埋蔵文化財の緊急発掘調査を実施したものであります。

調査では、縄文時代の遺跡包含地域と平安時代の住居址5軒、溝2条、土坑18基を確認し、数多の縄文土器片、石器、平安時代の土師器、須恵器等の遺物を検出することができました。

この調査に当たり住友林業株式会社をはじめ多くの方々のご理解とご協力により調査報告書が刊行できましたことに厚く御礼申し上げます。

平成5年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団 長 有 坂 淳



## 例言

- 1 本書は都市計画法第29条の開発行為（宅地造成事業実施）に先がけて実施した埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は前橋市教育委員会のもとに組織された前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長有坂 淳）の委託を受け、スナガ環境測設株式会社（前橋市青柳町211-1 代表取締役 須永眞弘）が実施した。
- 3 調査担当者 新保一美（前橋市埋蔵文化財発掘調査団 発掘調査係員）  
金子正人（スナガ環境測設株式会社 専務取締役）
- 4 遺跡名 西久保遺跡 略称4A-63
- 5 所在地 前橋市総社町植野字西久保
- 6 期間 発掘調査 平成4年8月7日～4年8月31日  
調査整理 平成4年9月1日～5年3月25日
- 7 調査面積  $A = 420 \text{ m}^2$
- 8 出土遺物は、前橋市教育委員会で保管している。
- 9 本書は、調査団の指導のもとに、スナガ環境測設株式会社埋蔵文化財調査部（専務取締役兼部長 金子正人）が作成に当り、執筆を金子正人、校正・編集を須永眞弘・勝田貞幸、文書の消書を須永薫子、遺物実測・計測を佐々木智恵子、遺物復元を鈴木起夫・佐々木智恵子・柴崎信江・須永豊、トレースを小林裕美、写真製版を鈴木起夫、内業事務を須永豊が担当した。
- 10 測量・調査計画は須永眞弘（測量士 第52614号）が行い、調査の指揮指導を金子正人、遺構・遺物の写真撮影を金子正人・勝田貞幸（調査員）、作業事務を柴崎信江が担当した。
- 11 調査にご協力を戴きました住友林業株式会社山口博人氏を始め、地元の方々並びに調査及び整理に際して種々ご指導を頂いた方々に心より感謝申し上げます。
- 12 調査に参加した方々（順不同）  
石川サワ子 内山恵美子 八木武史 矢野仁一 野口栄一 登坂正 上原薫  
野口たかね 内田重二郎 新井重男 伏島克太 山崎勘治 宮前実 上原亮

## 凡例

- 1 遺構の略号  
J - 縄文時代の住居址 H - 平安時代の住居址 W - 溝 S - 集石 TR - トレンチ  
D - 土坑
- 2 実測図の縮尺  
全体図 S = 1/200 住居址 S = 1/60 カマド S = 1/30 溝・集石 S = 1/60

遺物実測図 S = 1/3 その他の縮尺を使用した場合は個々に表示した。

3 挿入図

国土地理院発行の5万分の1「前橋」を使用した。

4 遺跡の位置・基準等

基準点 国土地理院三角点及水準点を照合済み

A-5 地点 第IX系座標値 X = 46,700.00m Y = -71,660.00m

水準点 BM<sub>1</sub> H = 141.50m

等高線 10 cm

グリッド 4 m 間隔

5 土層断面の土色名及び土器類の色調名は「新版標準土色帖」による。

## 目 次

序

例言

凡例

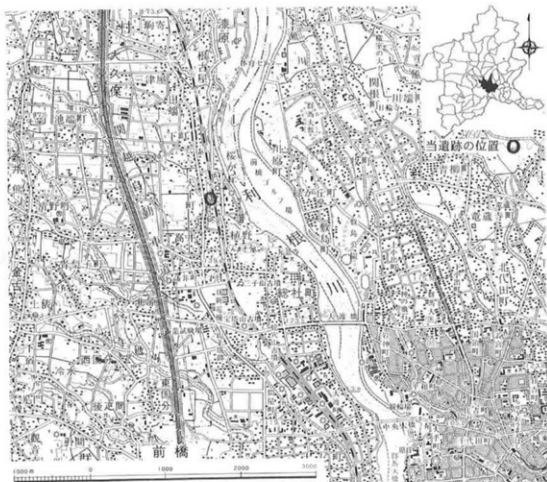
目次

I	遺跡の位置と環境	1
II	調査の概要	2
III	調査の経緯	2
IV	基本土層	3
V	遺構と遺物	4
1	縄文時代	4
	住居址・溝・集石	4
2	平安時代	4
	(1) 住居址	4
	(2) 土坑	6
3	その他	7
VI	まとめ	8
	出土遺物観察表	9～10
	遺構実測図 1～5	
	遺物実測図 1～3	
	図 版 1～10	
	全体平面図 1	

## I 遺跡の位置と環境

西久保遺跡が所在する前橋市総社町植野1156番地(字西久保)はJR上越線群馬総社駅より北へ500m地点である。榛名山東南麓に広がる火山傾斜面が終り前橋台地が東南に大きく広がり始める。これに沿って東流する午年頭川は、榛東村の最北城吾妻山付近より発し吉岡町から当遺跡の西(古岡町大字大久保字大下)を通り、総社町植野元景寺北で利根川に合流、その間大凡10kmに及んでいる。中世末には「午年頭川から取水し、勝山城の用水として使用されたものと思われる」(市史第二巻93頁)としている。近世では、天狗岩用水から分水し、総社城内濠の用水、宿場用水、水田用水として現在の元総社・総社地区はもちろん、高崎市中尾町・日高町・新保町など高崎市の北部地域まで、合わせて五千石の灌漑地をもつことから、五千石堰とよばれている。

この午年頭川の左岸に位置する遺跡で、周辺には若宮遺跡、柿木遺跡、桜が丘遺跡、稻荷山古墳、清里陣場遺跡、二子山古墳、愛宕山古墳、宝塔山古墳、蛇穴山古墳、山王院寺跡、因分僧・尼寺、因分寺中間地域遺跡、上毛野国府、王山古墳など貴重な遺跡が集中する地域である。



## Ⅱ 調査の概要

開発業者の調査依頼を受けて市教育委員会がトレンチ法で試掘調査を行った。試掘調査は道路の構築予定地にトレンチを入れ住居址等の遺構の存在することを確認した。前橋市埋蔵文化財発掘調査団が調査主体となり、平成 4年 8月 7日から発掘調査することになった。

調査は試掘トレンチに沿って、表土60～80cmの深さを機械（バックホウ）排土し、遺構プランを確認し発掘調査に入った。

### 調査の基準

A-1地点の公共座標は第IX系 X=46,700.00m、Y=-71,676.00m、A-5地点をX=46,700.00m、Y=-71,660.00mに測設し、これを基準として調査区を北西隅より緯線（X軸）にA・B・C……、経線（Y軸）に1・2・3……とする4mグリッドを設定した。

水準基準点（BM）標高を141.50mに測設した。

住居址、及びカマドは原則として確認面で十字にベルトを設定し土層観察を行った。

土坑・貯蔵穴は半載して土層観察を行った。

出土遺物は図面1/10～1/100のスケールで平面図・高さ等を記録後取り上げた。

その他の遺物はグリッド毎に、住居址・土坑などの遺構に流れ込んだ遺物は遺構毎に一括として取り上げた。

写真の撮影は、カラー、白黒、カラーリバーサルフィルムで記録した。

## Ⅲ 調査の経緯

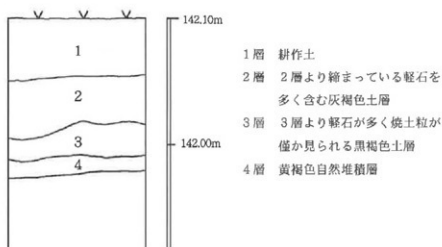
西久保遺跡は宅地造成工事に伴う都市計画法29条の開発行為にさきかけ前橋市宅地開発指導要綱（昭和48年前橋市告示第10号）第9条（文化財保護）の規定により開発事業者住友林業株式会社山口博人氏（東京都新宿区西新宿6丁目14番1号）から市教育委員会に事前協議があり確認調査を行ったところ奈良・平安時代の住居址を確認した。開発事業者と協議調整のうえ平成4年8月7日より前橋市埋蔵文化財発掘調査団で発掘調査を実施することとなった。

調査経過（調査日誌より）

- 平成4年8月7日 作業事務所設置、機材等搬入  
同日 重機にて表土掘削作業開始  
10日 調査区東側（JR側）防災用フェンス設置  
12日 ジョレン掻き、プラン確認作業開始  
19日 住居址調査開始（1～4号）  
20日 グリッド杭設定開始

- 21日 水準点 (BM=141.50m) 設定  
 24日 縄文土器包含層発掘 (住居と溝)  
 同日 土坑 2～15発掘、線引き、写真撮影  
 25日 雷雨により調査区水没する。  
 27日 カマド発掘開始  
 29日 カマド (1～4号) 完掘、平面図 1/20 実測  
 31日 全体図 1/100実測 コンター記入  
 西久保遺跡発掘調査終了
- 9月1日～2日 作業事務所機材等の搬出及びかたづけ  
 3日 整理業務開始
- 平成5年3月20日 整理業務終了

#### IV 基本土層





## V 遺構と遺物

調査は縄文時代住居址1軒の調査、溝(W-3)1条、それに伴う集石1ヶ所、土師器を伴う平安時代の住居址5軒、土坑6ヶ所の調査を行った。その外に現代の芋穴址(甘藷の貯蔵穴、牛蒡、薯蕷等の栽培に伴う土坑(D-1・3・4・8・9・10・11・12・16・17・18)11ヶ所、電柱の支脚跡(D-5・6)2ヶ所、溝(W-1・2)2条については位置確認のみを行った。

### 1 縄文時代

#### J-1号住居址

調査区南東隅J・K-6・7グリッドに位置する。地表面から60cm程排土した確認面にある。覆土は軽石と焼土粒を含む黄褐色土が堆積している。住居址の形状は、東側半分が調査区外で不明であるが直径4.00m程の円形を呈するものと思われる。炉と柱穴も不明である。

遺物は後期掘之内(Ⅱ)式土器を多く検出した。その外に加曽利B、加曽利E2様式土器も検出した。

#### 溝(W-3)と集石(S)の位置確認

調査区の南端部J・K-4・5・6、L-5・6グリッドでHr-FAの帯状(30~50cm)堆積を確認した。このHr-FAにトレンチを入れたところ、その下部から数石状の集石が確認された。この溝は台地の先端部を北西から東南に横切る形になると思われる。

### 2 平安時代

#### (1) 住居址

##### H-1号住居址

調査区北西隅のB-3・4グリッドに位置する。地表面から70cm程排土した確認面にある。覆土は焼土粒を含む黒褐色土が堆積しているが耕作により床面まで攪乱されている。

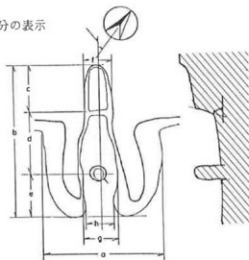
H-2号住居址と重複する。H-2号住居址の床面より5~15cm上にカマドが築かれているのでH-1号住居址の方がH-2号住居址より新しく、前橋市域では平安時代の重複する住居は西方に後退する傾向が見られるが、この場合もその例と考えられる。

住居址の形状は長軸南北方向4mと、短軸東西方向3.6mが推計され、隅丸長方形を呈しているものと思われる。長軸方向はN-103°-Eを測る。

壁はほとんど計測できなかった。堅い床面の範囲からH-1号住居のプランを推定した。ピットも確認されなかった。

カマドは東壁中央やや南寄りに位置し、カマドの主要部分は壁内で煙道が壁外に構築されている。主軸方向は(θ)N-86°-Eを測る。左袖部が比較的良く残っている。

カマドの各部分の表示



- a : 最大幅
- b : 全長
- c : 煙道長
- d : 燃焼部長
- e : 吹き口部長
- f : 煙道部幅
- g : 燃焼部幅
- h : 吹き口幅
- $\theta$  : 主軸方位
- $\sigma$  : 煙道部立ち上がり角

カマドの寸法は最大径 (a) = 138cm、全長 (b) = 145cm、煙道部幅 (f) = 17cm、燃焼部幅 (g) = 43cm、煙道部立ち上がり角度 ( $\sigma$ ) = 40°を測る。

#### H - 2 号 住 居 址

調査区北西部隅B-3・4 グリッドに位置しH-1号住居址と重複して確認された。地表面より70cm程排土した確認面にある。覆土は焼土粒、炭化物を含む黒色土と焼土粒を含む黒褐色土が堆積している。南西隅コーナの覆土の上にH-1号住居址のカマドが築かれている。住居址の形状は長軸南北方向3.38m 短軸東西方向2.98m を測り、隅丸長方形を呈す。主軸方向はN-92°-Eを測る。壁は95°に立ち上がる。主柱穴は確認できなかったが、貯蔵穴が南東コーナに壁柱穴が北壁から北西コーナの付近で14ヶ所確認された。

カマドは東壁中央部やや南寄りに位置し、壁内に主要部分が構築されている。主軸方向は ( $\theta$ ) = N-92°-Eを測る。カマドの寸法は最大径 (a) = 83cm、全長 (b) = 117cm、燃焼部幅58cm、煙道立ち上がり角度 ( $\sigma$ ) = 27°を測る。

#### H - 3 号 住 居 址

調査区北側中央部C・D-3・4・5 グリッドに位置する。地表面から70cm程排土した確認面にある。覆土は焼土を含む黒褐色土とロームを含む黄褐色土が堆積している。南西部コーナに新しい穴穴が確認された。住居址の形状は長軸南北方向4.30m、短軸東西4.20m を測り、ほぼ隅丸方形を呈す。主軸方向はN-76°-Eを測る。壁は75°~88°で立ち上がる。

ピット等の名称	形状 寸法			所在・その他
	形 状	径	深	
P-1	円	30×27	6.5	北西コーナー外側
P-2	円	33×32	10.5	北西コーナー内側
P-3	楕円	46×37	11.0	南西コーナー外側
P-4	円	29×28	7.0	南西コーナー内側
P-5	楕円	44×37	9.0	東壁ほぼ中央

カマドは東壁南寄りに位置し壁外に構築されている。主軸方向は $(\theta) = N-84^{\circ}-E$ を測る。左袖石が1石確認された。カマドの寸法は最大径 $(a) = 88\text{cm}$ 、全長 $(b) = 180\text{cm}$ 、煙道部幅 $(f) = 21\text{cm}$ 、燃焼部幅 $(g) = 55\text{cm}$ 、煙道立ち上がり角度 $(\sigma) = 25^{\circ}$ を測る。

カマド燃焼部で台付臺の台部が胴部との接合部で割れたものを検出した。

#### H-4号住居址

調査区北側中央部D・E-3・4・5グリッドに位置する。地表面から70cm程排土した確認面にある。覆土はHr-PP及びC軽石を含む黒褐色土とロームブロック及び焼土粒を含む黄褐色土が堆積している。住居址の形状は長軸方向4.20m、短軸方向2.88mを測り、歪んだ隅丸長方形を呈す。主軸方向は $(\theta) = N-91^{\circ}-E$ を測る。壁は $58^{\circ}\sim 88^{\circ}$ で立ち上がる。

ピット等の名称	形状 寸法			所在・その他
	形状	径	深	
P-1	円	25×25	13.5	北西コーナー寄り
P-2	円	22×24	38.0	南壁中央部
P-3	円	18×15	19.5	北壁中央部

カマドは東壁中央やや南寄りに位置し、壁外に構築されている。主軸方向は $(\theta) = N-97^{\circ}-E$ を測る。両袖と燃焼部中央に支脚の石が確認された。カマドの寸法は最大径 $(a) = 92\text{cm}$ 、全長 $(b) = 140\text{cm}$ 、煙道長 $(c) = 60\text{cm}$ 、燃焼部長 $(d) = 42\text{cm}$ 、焚き口部長 $(e) = 38\text{cm}$ 、煙道立ち上がり角度 $(\sigma) = 40^{\circ}$ を測る。

#### H-5号住居址

調査区東壁北寄りC-6グリッドに位置する。地表面から50cm程排土した確認面にある。JRとの境界に近く、住居址の西壁の一部を確認する事ができた。覆土はHr-PP軽石と炭化物を含む黒褐色土が堆積している。住居址の形状はJRとの境界に近く住居址の一部しか調査できなかった。南北4.50m 隅丸長方形を呈するものと思われる。カマドは調査区外ですでに鉄道建設に伴って破壊されているものと思われる。覆土中より完形の塀が一点検出された。

## (2) 土坑

#### D-2号土坑

調査区北東部D・E-6グリッドに位置する。地表面から70cm程排土した確認面にある。覆土は礫と焼土粒を含む黒褐色土が堆積している。形状は南北方向128cm東西方向102cmを測り、楕円形を呈する。遺物は検出されなかった。時期不明。

#### D-3号土坑

調査区東側E-5・6グリッドに位置する。地表面から約70cm程排土した確認面にある。覆土は礫と焼土粒を含む黒褐色土と礫とロームを含む黄褐色土が堆積している。形状は南北方向157cm東西方向129cmを測り楕円形を呈する。遺物は検出されなかった。時期不明。

#### D - 7 号 土 坑

調査区中央部東側 F-5・6 グリッドに位置する。地表面から約70cm程掘土した確認面にある。覆土はロームを含む黄褐色土が堆積している。形状は南北方向 183cm、東西方向 1.15mを測り、楕円形である。遺物は検出されなかった。

#### D - 1 3 号 土 坑

調査区南側 I-6 グリッドに位置する。地表面から65cm程掘土した確認面にある。覆土は軽石を含む黒褐色土と焼土と小礫を含む黄褐色土が堆積している。形状は長辺 113cm、短辺 102cmの隅丸方形を呈する。遺物は縄文土器片が1点と自然石1点が検出された。

#### D - 1 4 号 土 坑

調査区南側中央 I・J-6 グリッドに位置する。地表面から約80cm掘土した確認面にある。覆土は焼土を含む黒褐色土と礫と焼土を含む黄褐色土が堆積している。形状は長辺 150cm、短辺 107cmの楕円形を呈する。遺物は縄文土器片11点が検出された。

#### D - 1 5 号 土 坑

調査区南側中央部 I・J-6 グリッドに位置する。地表面から約75cm掘土した確認面にある。覆土は軽石を含む黒褐色土と焼土粒を含む黄褐色土が堆積している。形状は長辺 210cm、短辺 158cmの楕円形を呈する。遺物は縄文土器片9点が検出された。

### 3 そ の 他

- ・ A-3・4・5、B-3・4・5・6、C-4・5・6 グリッド内、現代の畝状遺構が確認された H-1 号住居の床面より深く掘られている所もあり H-1・2 号住居のカマドは部分的に破壊されている。
- ・ J-4、K-5・6 グリッドにかけて Hr-FA が堆積する水路状の遺構が確認された。
- ・ K-5・6 グリッド内で河原石を敷きつめたものと思われる状態の石が確認されたがこれほどのような遺構が確認するに至っていない。

## VI ま と め

西久保遺跡は、西に榛名山、東に利根川、北東には赤城山を望む地にある。榛名山の東南斜面を流下する多くの中小河川（染谷川・八幡川・午王頭川等）により火山灰堆積物を裾野に拡げ、相馬ヶ原付近を扇頂とした扇状地を形成し、山裾には前橋台地を構成する地層が露呈している。

当遺跡は標高143.30～141.45m で午王頭川左岸台地上に在る。JR上越線がこの台地の中央部を南北に走り、調査地が上越線西側に在り、進入路のない地域で調査作業には色々と困難が伴った。遺構は縄文時代後期、堀之内2様式の遺物を伴う住居址1軒が確認された。これらの遺物の中には図版№8に示したように口縁部にその特色を持つ破片が数多く検出された。注口土器の破片と思われる（図版№10）や、ミニチュア土器等が検出された。13・14・15号土坑は出土した土器片の形態から縄文時代後期（堀之内式土器）のものと思われる。

平安時代の住居址が5軒確認された。確認面までの掘削中に26～31までの出土遺物があることから、多くの住居址の存在した可能性が考えられるが耕作などで攪乱され、遺構プランの確認が不可能であった。

### 住居址について

出土遺物から9世紀前半から10世紀前半までの土器が検出された。各住居址の特徴をまとめると平面形が横長と縦長のプランの形態に分けられる。

またカマドの袖部が住居内に構築されているものが横長であり、袖の端が壁に並行するものが縦長の形態になっている。

### 検出された遺物について

観察表から検討してみると壺は実測図№4・14・17・18・24を検出している。これらの内№14を除いて頸部が「コ」字状屈曲し、胴部にその最大径をもつものと思われる。

土師器坏（№10）の1点であるが、底部に丸みを帯び体部は緩やかに屈曲して開き口縁端部で緩やかに内傾している。

須恵器坏は№2・7・12・13・16・21・22・27の8点を検出した。底部は上底で回転糸切りを施し、体部は下半部で丸味を有している。底径が口径の50%前後から50%以下、口縁端部の外反・肥厚する傾向が見られる。

高台付碗は№23・25・28・30の4点を検出した。№23は底部回転糸切り、口縁部は外反しロクロ整形をしている。№25・28、底部回転糸切り、体部はやや丸味を持ち口縁部で外反し、ロクロ整形している。

これらの遺物はロクロ整形等の土器成整形の特徴から9世紀中頃から9世紀後半のものと思われるが、検出した土器に完形品が少なく、住居址の詳細な時期を決め切らないものがある。

西久保遺跡 出土遺物観察表

注：①口径②底径③胴径④最大径⑤柄径⑥横径⑦長さ⑧幅⑨厚み⑩穿孔径⑪重さ（①～⑧はcm、⑨はg、⑩は推定値を表す）

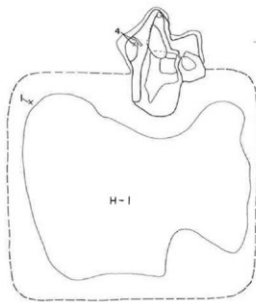
No.	位置	器種	法	量	胎土	焼成	色調	特徴	遺存
1	B-1	須恵器 蓋	①(18.2) ②(1.9)	普通	還元	青灰	底部で緩やかに外傾。口縁部は短かく内傾し、ロコロ整形。	口縁部欠損	
2	B-1	須恵器 環	①(11.8) ②(7.0) ③2.2	普通	還元	青灰	底部は僅かに上傾。体部は緩やかに内傾して立ち上がる。内外面ロコロ整形。底部は縁部を削ぎ落とす。	口縁部欠損	
3	B-1	鉄製品	①現存径1.7 ②③1.9 ④0.2 ⑤⑥11.25				刃部のみ残存。		
4	B-1	土師器 甕	①(17.8) ②(9.3)	普通	酸化	橙	口縁部は「コ」の字状を呈し、胴部は緩やかに内傾する。外面口縁部は僅かに丸味のあるナデ。胴部は中位にへら削り、内面は縁部のナデ。	口縁部欠損	
5	B-2	鉄製品 鏝	①現存径3.4 ②1.9～2.5 ③0.2 ④24.67				背面緩やかに彎曲し、背面先端欠損。	背面一部欠損	
6	B-2	鉄製品 刀子	①現存径12.7 ②③1.2 ④0.3 ⑤12.70				刃部先端が欠損する。胴部は緩やかに内傾する。基部は縁部に向かって先細り。	-	
7	B-2	須恵器 環	①(6.0) ②(1.7)	普通	還元	明緑灰	平底。体部は直線的に外傾。ロコロ整形。底部は縁部を削ぎ落とす。断面は丸味がある。	底部外傾	
8	B-3	石製品 砥石	①上径13.5 ②下径4.4 ③1.9 ④0.9 ⑤61.43				断面が形状。下径部、平面部。上径部はやや凸状。側面と下面研磨。断面は丸味がある。	-	
9	B-3	鉄製品	①現存径2.2 ②4.8 ③0.3 ④29.87				背面先端欠損する。一様折れ曲がる。背面平らである。	-	
10	B-3	土師器 環	①(12.2) ②3.5	普通	酸化	明緑	体部は緩やかに内傾する。口縁部は縁部で僅かに内傾し、丸底碗状の底面。内外面口縁部は丸味のあるナデ。外面は押入ナデ。底部はへら削り。	口縁部欠損	
11	B-3	鉄製品 刀子	①現存径12.9 ②③1.4 ④0.3 ⑤15.75g				刃部先端及び基部部が欠損する。胴部は基部よりわずかの反発を認む。刃部は、基部より緩い角度で段を有す。基部は縁部に向かって先細りし、一部欠損あり。	-	
12	B-3	須恵器 環	①(11.8) ②6.7 ③0.2	粗	還元	暗青灰	若干上傾。体部は下半部で丸みを有し、上半部へ口縁部にかけて外反する。ロコロ整形。底部は右回転を呈す。	口縁部欠損	
13	B-3	須恵器 環	①(13.2) ②3.3	粗	還元	暗青灰	体部は内傾気味に立ち上がり、口縁部で外反する。体部外面ロコロ整形。底部は縁部を削ぎ落とす。	体部外傾	
14	B-3	土師器 甕	①(19.8) ②(10.4)	良	酸化	赤褐	断面は緩やかに立ち上がり口縁部で外反する。口縁部上位に接合面が浅く残る。口縁部は外面縁部のナデ、外面は押入ナデ。断面はへら削り。内面はへら削り。	口縁部欠損	
15	B-3	陶片	①10.4 ②(7.8)	良	酸化	赤褐	断面は中位で屈曲し、基部部で緩やかにひろがる。断面は外面縁部が丸味がある。	接合面のみ	
16	B-3	須恵器 環	①(12.8) ②3.5	粗	還元	青灰	底部は上傾気味。体部は緩やかに丸みをもち口縁部で外反する。ロコロ整形。底部は縁部を削ぎ落とす。	口縁部欠損	
17	B-3	土師器 甕	①(19.4)	良	酸化	明黄緑	口縁部は「コ」の字状を呈し、胴部で外反する。口縁部は縁部を削ぎ落とす。断面は丸味のあるナデ。	口縁部欠損	
18	B-3	土師器 甕	①(18.8) ②(7.8)	良	酸化	明赤褐	口縁部は「コ」の字状を呈し、口縁部で段を有す。口縁部は外面縁部のナデ。断面は外面に押入気味あり。口縁部中位に接合面が浅く残る。	口縁部欠損	
19	B-3	鉄製品	①現存径4.6 ②4.5 ③0.3 ④66.70				背面全体が大きく彎曲する。一様折れ曲がる。背面平ら。刃部先端が大きく欠損する。本質部付着。	-	
20	B-4	鉄製品	①現存径12.9 ②③1.2 ④0.3 ⑤18.89				背面全体が大きく彎曲する。一様折れ曲がる。背面平ら。刃部先端が大きく欠損する。本質部付着。	-	
21	B-4	須恵器 環	①(13.0) ②3.2	良	還元	暗青灰	上傾。体部は僅かに丸味をもち立ち上がり、口縁部で外反する。ロコロ整形。底部は縁部を削ぎ落とす。	口縁部欠損	
22	B-4	須恵器 環	①(12.8) ②(7.8) ③2.3	-	還元	灰白	平底。体部は緩やかに彎曲し口縁部で外反する。ロコロ整形。底部は縁部を削ぎ落とす。断面は丸味がある。	口縁部欠損	
23	B-4	高台付 甕	①(16.4) ②③9.9 ④6.5	普通	還元	青黒	大型の甕。体部は緩やかに内傾して立ち上がり、口縁部で僅かに外反する。ロコロ整形。底部は縁部を削ぎ落とす。「ハ」の字状付高台、ナデ。	口縁部欠損	
24	B-5	土師器 甕	①(19.4) ②(10.5)	良	酸化	明緑	口縁部は「コ」の字状を呈し、胴部で外反する。口縁部は縁部を削ぎ落とす。断面は丸味のあるナデ。断面はへら削り。	口縁部欠損	
25	B-5	高台付 甕	①14.4 ②高台径7.4 ③5.3	粗	酸化	明黄緑	高台は「ハ」の字に外傾して開く。体部はやや丸みをもって立ち上がり口縁部で外反する。体部はロコロ整形。底部は縁部を削ぎ落とす。断面は丸味がある。断面はへら削り。	完形	
26	4A-43	須恵器 皿	①(13.2) ②(7.9) ③1.1	良	還元	青灰	縁部を削ぎ付けた底部が直線的に外反する体部。器面に歪み有り。内外面ロコロ整形。底部は縁部を削ぎ落とす。断面は丸味がある。	口縁部欠損	
27	4A-53	須恵器 環	①(13.0) ②6.4 ③0.5	普通	還元	暗青灰	底部は上傾気味で体部で下段をなし、緩やかに内傾しながら口縁部で外反する。外面ロコロ整形。底部は縁部を削ぎ落とす。	口縁部欠損	
28	4A-43	土師器 甕	①(14.4) ②(4.5)	良	還元	青黒	体部丸みを持ち、口縁部で外反する。外面ロコロ整形。内面ナデ調整。	口縁部欠損	
29	4A-43	土師器 甕	①14.2 ②7.2 ③0.1	良	酸化	浅黄	「ハ」の字状に外傾する高台。体部が大きく外傾して開く。口縁部は外面縁部のナデ。断面は丸味がある。断面はへら削り。断面は丸味がある。	完形	
30	4A-43	須恵器 甕	②(7.0) ③(2.0)	良	還元	青灰	直立的に立つ高台。体部はやや内傾する。ロコロ整形。付着面ナデ。底部は縁部を削ぎ落とす。内面縁部。高台部、部分的にへら削り。	底部のみ	
31	4A-43	須恵器 皿	①(13.2) ②(8.7) ③2.5	良	還元	灰白	「ハ」の字状に外傾する高台。体部は直線的に外傾して開く。ロコロ整形。断面は縁部を削ぎ落とす。付着面ナデ。内面縁部を削ぎ落とす部分有り。	口縁部欠損	

法量：①口径②底径③胴部最大径④頸部・接合部径⑤頸径⑥器高⑦長さ⑧輪帯厚み⑨穿孔径⑩重さ（①～⑧はcm、⑨はg、（ ）は推定値を表す）

No.	位置	器種	法量	石材	特徴
32	J-1	打削石斧	①8.8 ②7.2 ③2.7 ④200	黒色頁岩	分剝形石斧の片。
33	J-1	石斧	①7.3 ②7.7 ③1.3 ④83.55	安山岩	分剝形石斧。
34	4A-63	多孔石	①21.6 ②17.2 ③13.6 ④61.00	安山岩	両面使用痕あり。
35	J-1	石錐	①7.9 ②1.2 ③0.7 ④5.39	黒色頁岩	錐部が非常に細長く精巧である。後期
36	J-1	石錐	①6.0 ②5.3 ③1.5 ④47.45	黒色頁岩	錐部。
37	J-1	凹石	①10.3 ②7.8 ③6.0 ④60	安山岩	片面使用痕あり。
38	B-13-1	凹石	①13.2 ②12.9 ③6.3 ④1100	安山岩	両面使用痕あり。

## 参考文献

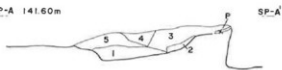
- 清里・陣馬 1981 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団  
 芳賀東部団地 1988 前橋市教育委員会  
 下東西 1987 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団  
 柿木 1984 前橋市教育委員会  
 鳥羽 1986 報告書第11集 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団  
 村東 1988 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
 柿木Ⅱ 1988 前橋市教育委員会  
 若宮 1989 前橋市埋蔵文化財発掘調査団



SP-A 141.60m

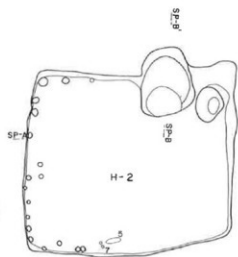


H-1



H-1カマド 土層付記

- 1 黒灰色(砂・砂)層
- 2 黒灰色粘土層
- 3 黒灰色粘土層
- 4 黒灰色土ブロック
- 5 黒灰色粘土層中に埋石の小壁を3区画



SP-A 141.50m



H-2 土層付記

- 1 細かな砂石と粘土粒・灰化物を含む黒灰色土層
- 2 粘土粒を含み、砂石が少ない黒灰色土層
- 3 細かな砂石と粘土粒を多く含む黒灰色土層
- 4 1~3cmの灰化物を多く含む黒灰色土層
- 5 コームを含む黒灰色土層

SP-B 141.50m



H-2カマド 土層付記

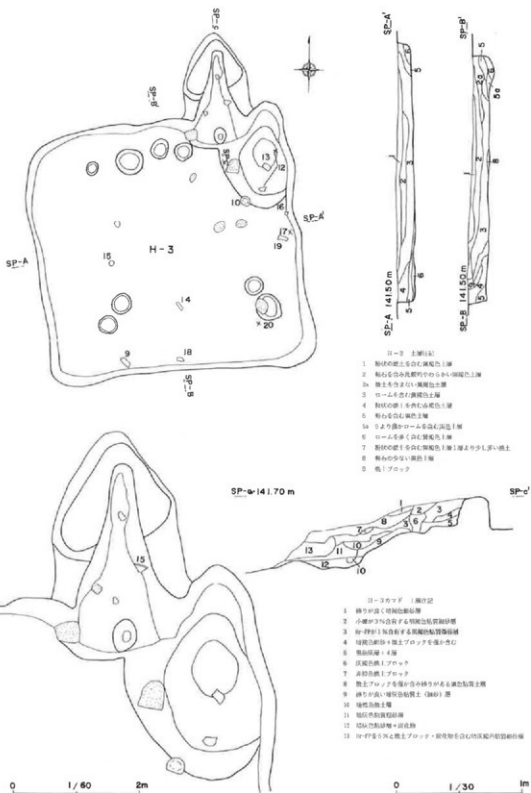
- 1 粘土ブロックと砂の混入する黒砂を含み灰化物の高い黒灰色土層
- 2 小壁と土 砂を含む黒灰色土層
- 3 小壁と粘土ブロックを混入する黒灰色土層
- 4 小壁と粘土ブロックを混入する黒灰色土層
- 5 粘土ブロックを3区画含む黒灰色土層
- 6 黒灰色粘土層
- 7 粘土ブロックが混入する黒灰色土層
- 8 黒灰色粘土層
- 9 黒灰色粘土層に粘土ブロック
- 10 灰化物が混入する黒灰色土層
- 11 黒灰色粘土層に黒砂と粘土を混入
- 12 黒灰色粘土層中に埋石の小壁を3区画

0 1/60 2m

0 1/30 1m

第4図 H-1号住居跡・カマド、H-2号住居跡・カマド実測図





第 6 図 H-3 号住居跡・カマド実測図

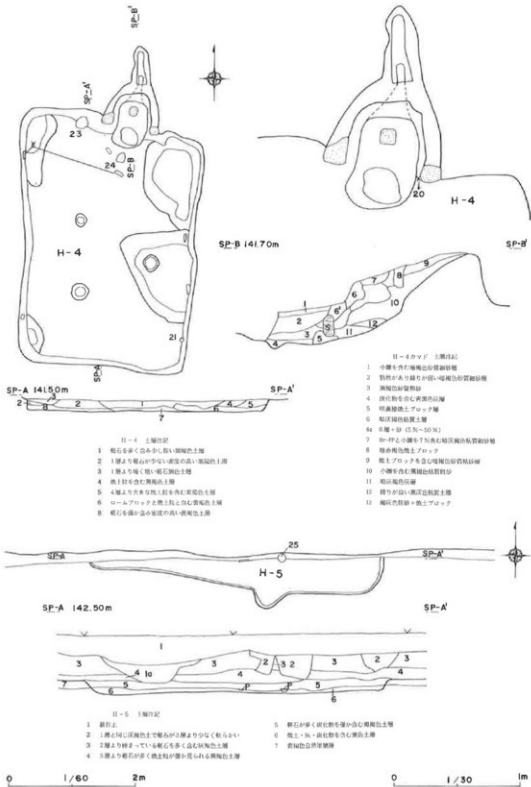
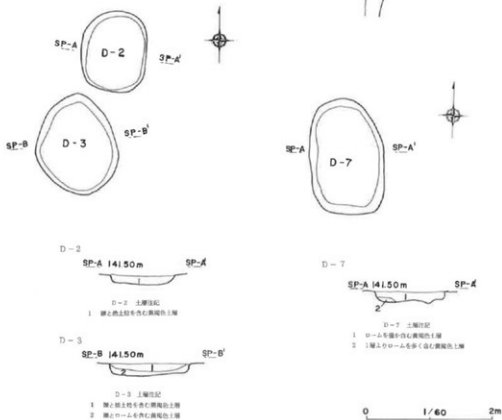
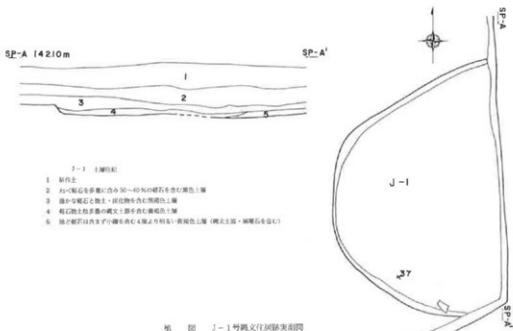
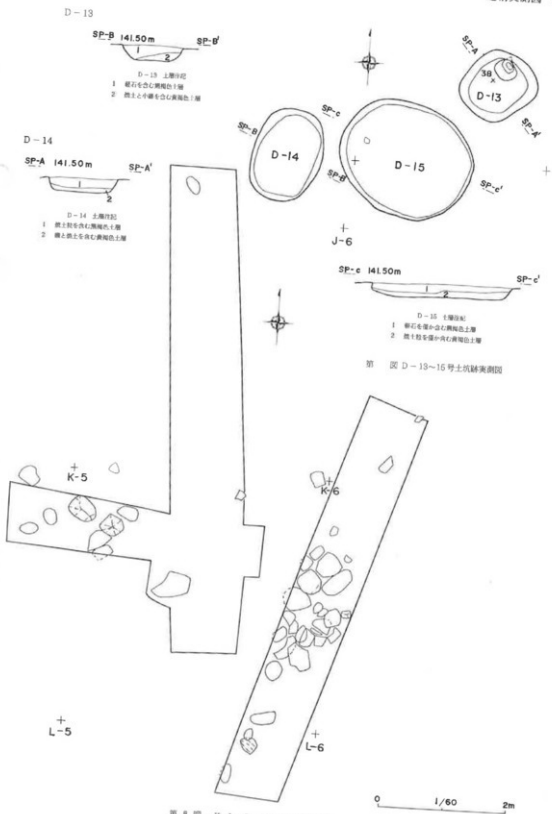
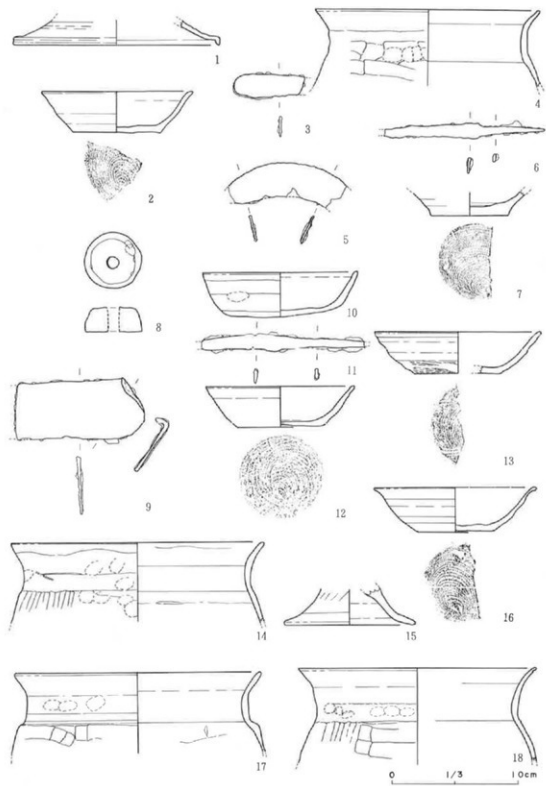


図 6 同 H-4号住居跡・カマド、H-5号住居跡実測図

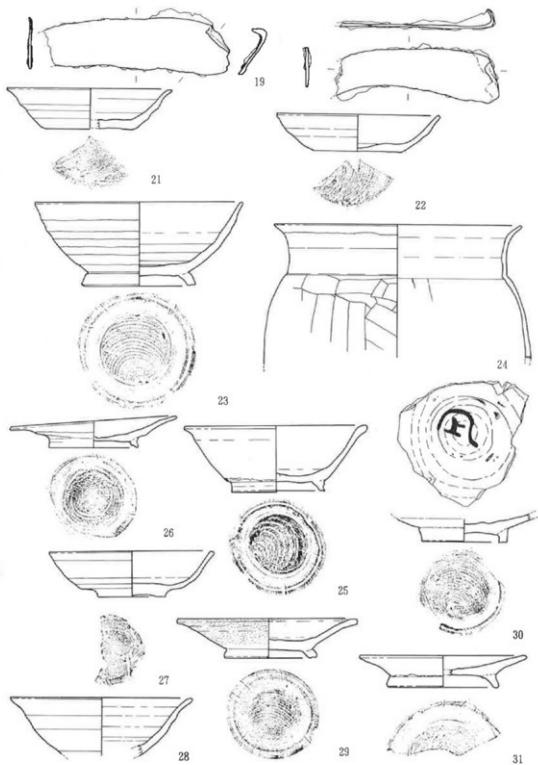


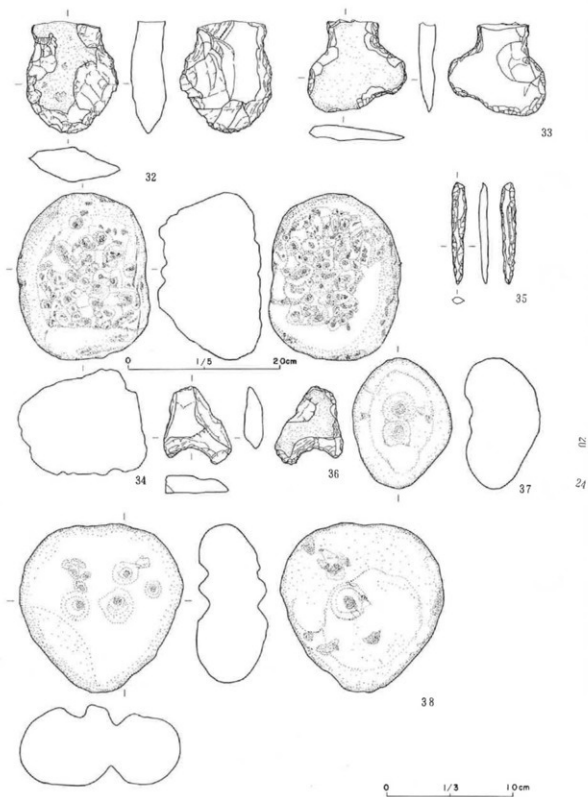


第 8 図 K-L-5~6G内礫石平面実測図

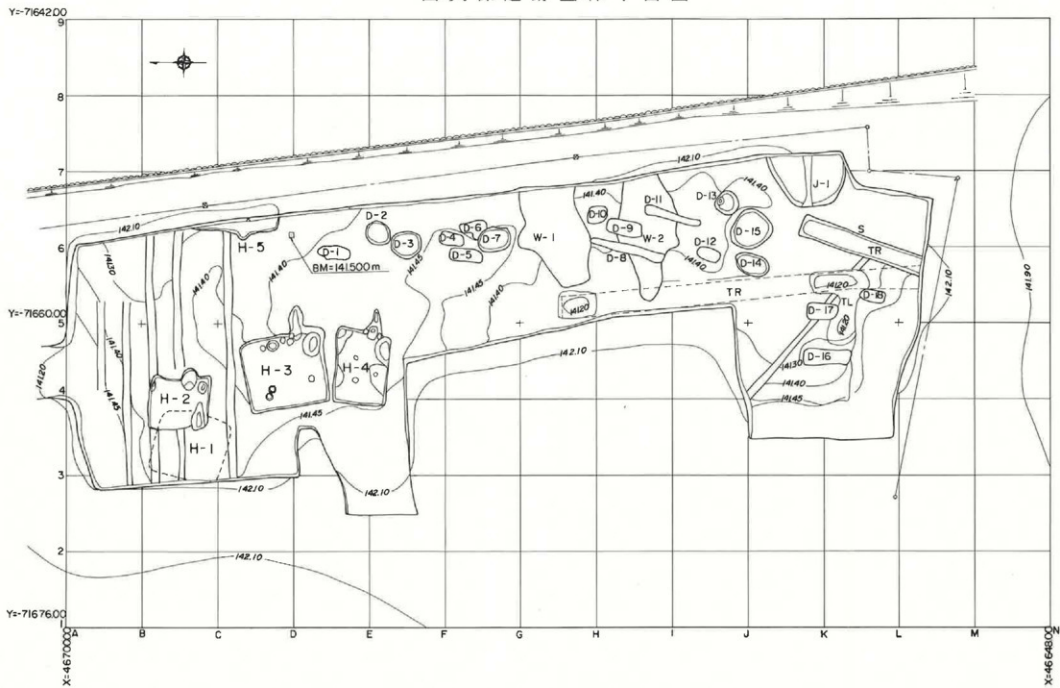


遺物実測図1 (No.1~18)





西久保遺跡全体平面図



0 1 / 200 6m

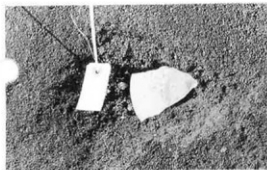




西久保遺跡調査区全景



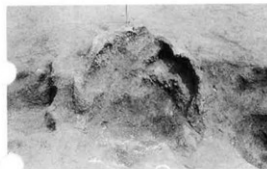
H-1カマド完掘



H-1出土遺物



H-2全景(完掘)



H-2カマド完掘



H-2カマド土層断面



H-3・4土層断面



H-3全景(完掘)



H-3 遺物出土状況



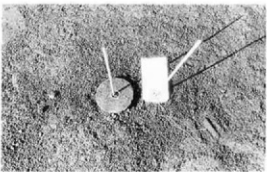
H-3 遺物出土状況



H-3 遺物出土状況



H-3 カマド土層断面



H-3 遺物出土状況



H-3 遺物出土状況



H-3 遺物出土状況



H-3 遺物出土状況



H-4 全景



H-4 カマド完顔・遺物出土状況



H-3-4 全景



J-1 遺物出土状況



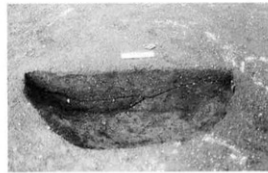
築石トレンチ状況 (K~L-5~6G内)



D-13 全景



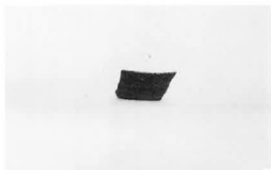
D-14 遺物出土状況



D-15 1層断面



NO. 1



NO. 2



NO. 4



NO. 7



NO. 8



NO. 10



NO. 12



NO. 13



NO. 14



NO. 15



NO. 16



NO. 17



NO. 18



NO. 21



NO. 22



NO. 23



NO. 24



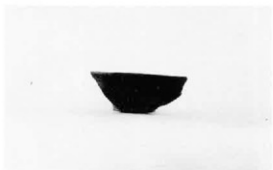
NO. 25



NO. 26



NO. 27



NO. 28



NO. 29



NO. 30 表面



NO. 30 内面



NO. 31



NO. 3·5·6·11



NO. 9·19·20



NO. 35·36



NO. 32·33



NO. 34



NO. 37·38



加普利 E 2



壺之内口緣部表面



壺之内口緣部裏面





縄文後期 表面



縄文後期 裏面



縄文後期



縄文後期 胴部



縄文後期 胴部



縄文後期 底部



縄文後期 底部



縄文後期 注口土器



縄文中期～後期



縄文後期 ミニチュア土器

宅地造成事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

西久保遺跡

---

平成5年3月20日 印刷  
平成5年3月25日 発行

発行者 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
前橋市上泉町664番地の4

編集 スナガ環境測設株式会社  
前橋市青柳町211番地の1

印刷 有限会社サクラヤ印刷所

---